

【12月6日（月）人権週間の放送朝礼のお話】

全校のみなさん、おはようございます。早いもので、12月も2週目に入りました。

11月29・30日に、6年生は修学旅行で奈良と京都に行ってきました。6年生のみなさんは、事前学習で調べた歴史ある建造物等を実際に見てみてどう感じたでしょうか？初めての宿泊行事でしたが、しっかりと集団行動もでき、約束も守れ、実りの多い修学旅行でした。修学旅行で学んだたくさんのことを、これからの生活にしっかりと生かして欲しいと思います。

さて、12月4日～10日は「人権週間」です。毎年人権についてはお話をしていますが、「人権」と言うのは、「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利」です。もう少し分かりやすく言うと、「一人一人が自由で、安心して、安全に生活することができる権利」で、どんな人にも平等に与えられた権利です。

今年の人権週間は、明後日8日(水)に、東京パラリンピックに、カヌーの日本代表選手として出場した「加治良美（かじ よしみ）さん」に講演会を行っていただきます。当日は、加治さんのお話をたくさん聞くことができるように、講師の紹介を朝礼で行います。少し長くなりますが、しっかりと聞いてください。

加治さんは、現在38歳。中学校で先生をしているご主人と6歳になる息子さんがいます。校長先生は、草平小学校に来る前は、ご主人と同じ職場で仕事をしていた、加治さんのことはご主人を通じて知っていました。

加治さんは、岡崎市出身。幼いころからスポーツが大好きで、将来の夢は「小学校の先生になること」でした。しかし、中学校2年生（14歳）の時に交通事故に遭い、両足を失ってしまいました。車いす生活を送ることになった彼女は、絶望の中で、一度はその夢をあきらめたそうです。

その後16歳の時に、車いすマラソンに出会いました。競技に打ち込むうちに、成果を出すことができ、だんだんと自信を取り戻して、前向きな気持ちが芽生えていきました。

「車いすでも、夢は叶えられることを伝えたい！」という強い気持ちを持ち、大学へ進学しました。たくさんの苦労があったと思いますが、彼女は一度は諦めた「先生になる」という夢をみごとに叶えたのでした。

その後、同じ先生という仕事が縁で知り合ったご主人と結婚。現在はあま市に住んでいます。お子さんにも恵まれ、充実した生活を送っていました。子育てが少し落ち着き、再び車いすマラソンの競技を再開し、平日は先生として働き、土日は大会に参加する生活を

送っていました。ご主人や息子さんは大会と一緒について行って、手助けをし、応援をしてきました。

ある時、車いすマラソンの大会で優勝した姿が、パラリンピックのカヌー競技の関係者の目に留まり、「パラカヌーをやってみませんか」との誘いを受けました。前向きな加治さんは、興味を抱き競技を始めてみると、持ち前の運動能力の高さと強い精神力でめきめきと上達。わずか1年で日本選手権で優勝するまでに成長しました。そして「パラカヌーで東京パラリンピックに出場する」という新しい夢ができました。

しかし、その夢のためには先生の仕事や子育てを犠牲にしなくてはなりませんでした。悩んだ加治さんの背中を押したのはご主人でした。中学校で家庭科を教えているご主人が、加治さんが仕事を辞めても競技に専念できるよう、家計を支え、遠征などで留守をするときには家事や育児も一手に引き受けてくれました。

また、もう一人のサポーターが6歳になる息子さんです。週末は練習に同行し、道具を運んだりカヌーの手入れを手伝ってくれたそうです。

そんな力強い応援を受けてメダル獲得を目標に臨んだパラリンピックでしたが、大会直前にわき腹を痛め本来の力を発揮できず、結果は惜しくも9位でした。

「悔しい」気持ちと同時に、3年後パリで開催予定のパラリンピックへの挑戦を決意したと聞いています。

そんな加治選手に、「自分らしく生きるということ」というテーマで講演をしていただきます。今日の講師紹介を思い出しながら、しっかりと聞いてくださいね。楽しみにしててください。

人権の話に戻りますが、みなさんのクラスでは人権が守られていますか？

友達に嫌なことを言ったり、意地悪をしたりして、友達の人権をおかしている人はいませんか？

授業中に私語をしたり勝手な行動をして、友達の学習をする権利を奪っている人はいませんか？

反対に、「自由に、安心して、安全に生活できていない友達」はいませんか？

この人権週間は、そんな観点で、自分のクラスや草平小学校を振り返ってみましょう。

そして、みんなが笑顔で安心して学校生活が送れる草平小学校にしていきましょう。

校長先生のお話を終わります。